

株式会社エスアイテック（芝浦工業大学） － 卒業生ネットワークを活用した技術者派遣事業 －

- 大学と父母会（後援会）、卒業生団体（校友会）の三者による出資会社。
- 芝浦工業大学の卒業生（企業退職者）を中心とした技術者派遣事業を展開。
- 大学業務のアウトソーシング受託だけでなく、大学本体では実施困難な新たな事業を開拓。

1. はじめに

株式会社エスアイテックは、学校法人芝浦工業大学が1998年に設立した大学出資会社である。芝浦工業大学の教育と研究の発展を支援するために、学校法人芝浦工業大学と父母会（後援会）、卒業生団体（校友会）それぞれが資金を出資して同社が設立された。その目的の一つとして、事業活動を行い獲得した利潤の一部を芝浦工業大学に寄付・還元している。

同社の主要な事業として、芝浦工業大学卒業生を中心とした技術者派遣事業（人材バンク事業）がある。産業界で活躍し実務経験の豊富な芝浦工業大学の卒業生に、同社が管理するデータベースに登録してもらい、依頼を受けた企業への派遣を行う事業である。本稿では芝浦工業大学の知と人材を活用した同社の事業展開を紹介する。

表 1 株式会社エスアイテック 会社概要

会社名：エスアイテック株式会社
本社所在地：東京都江東区豊洲 3-7-5 芝浦工業大学豊洲キャンパス交流棟 2 階
設立年月日：1998 年 6 月 30 日
資本金：2000 万円（2014 年 11 月増資）
社員：30 名
出資者：学校法人芝浦工業大学、芝浦工業大学後援会、芝浦工業大学校友会
代表者：代表取締役 鈴見健夫
売上高：18 億 2,731 万円
経常利益：407 万円
芝浦工業大学への寄付金：5000 万円

（出所）株式会社エスアイテックウェブサイトおよび 2014 年度決算報告

<<http://www.sitech-jp.com/company.php>>

2. 株式会社エスアイテックの事業

株式会社エスアイテックの事業内容は多岐に亘る（表 2）が、ここでは主な事業を紹介する。

(1) 卒業生の人材バンク事業

芝浦工業大学は、1927 年に前身の東京高等工商学校を設立して以来、一貫して実学主義を掲げて堅実に仕事ができる優れた技術者を育成してきた。同社の人材バンク事業は、長い伝統を持つ芝浦工業大学の最大の資産である卒業生に立脚した事業である。芝浦工業大学が輩出し、企業の第一線で活躍していた実務経験の豊富な人材に、同社が管理するデータベース（人材バンク）へ登録してもらい、企業や大学等の要請に応じて、専門的技術や知見を有する技術系人材として派遣するというもの。

芝浦工業大学出身という知的バックボーンと産業界で実務経験を積んだ技術系人材を大学出資会社が派遣するという事業スキームにより、ディベロッパーやゼネコンなどの建設・設備施工業務、製造業での ISO 認証取得支援業務、商品開発業務など派遣先は多岐に亘る（表 3）。

同社の強みは、登録された技術者人材が皆、高度な技術と豊富な経験を有することである。人材バンクに登録している卒業生は、ゼネコンや行政機関に勤めていた者が多く、現役時代に培った技術や人的ネットワークを生かして活躍している。

なお、この卒業生（技術者）派遣とは別に一般事務系人材の派遣も行っており、芝浦工業大学で勤務する派遣職員約 150 名のうち約 80 名が同社所属である。派遣先は芝浦工業大学にとどまらず、一般企業や他大学にも及んでいる。

(2) 大学の調達・購買業務、施設管理業務の集約化・合理化

同社は人材バンク事業以外にも、芝浦工業大学を顧客とする様々な事業を実施している。具体的には、大学で使用する備品等の調達・購買業務の代行やプロパティマネジメント（施設管理）である。同社は「建築士事務所」登録も行っているため、大学が施設等を新築・修繕する際、専門性を有する同社が元請けとして業務を受託している。これらの事業は、学校法人の職員が自前で実施していた業務を大学出資会社に集約することで、専門性の蓄積・業務の合理化を進め、大学の運営コストを縮減できている。

表 2 株式会社エスアイテック事業内容

<p>【人材開発（人材派遣・紹介予定派遣・職業紹介）】技術系職と一般事務系職の人材紹介事業を展開。技術系職では、芝浦工業大学の卒業生を中心に高度な技術や経験を有した人材を「芝浦工業大学卒業生人材バンク」より派遣・紹介を行っている。一般事務系職では、一般企業での業務経験や大学事務・秘書など、実務経験豊かな事務系の人材を派遣・紹介している。</p> <p>【施設管理】設備保守・警備・清掃業務の総合管理を受託し、エネルギー管理を含め、キャンパスの施設運用を支援している。特定建設業許可を取得し、建築・土木・電気工事を中心にあらゆる工種の工事の受託が可能であり、一級建築士事務所として建物の設計管理業務も行っている。</p> <p>【キャンパスの環境整備支援】芝浦工業大学、芝浦工業大学附属中学高等学校、芝浦工業大学柏中学高等学校を中心に、総合的なキャンパス支援活動を展開している。事務用什器、OA 機器、備品、消耗品、研究室機器などの納入・サポートをはじめ、イベントの企画・運営、ホームページの作成、売店の運営などを行っている。</p> <p>【技術支援】芝浦工業大学の知的資源とネットワークを用いて、技術相談や委託研究のマネジメントを行っている。技術相談では、企業等の依頼を受けて、技術の開発、改善、管理や保有施設の活用などの技術上の問題解決の支援を行っている。また、企業内では実施できない実験・分析や基礎研究、研究上の問題を解決するために、大学のリソースを活用しながら委託研究や共同研究を推進している。また、技術者・コンサルタントを派遣し、技術の提供も行っている。</p> <p>【特別販売】学習教材として「芝浦マイクロロボットシリーズ」を販売している。</p> <p>【損害保険・生命保険代理店業】火災保険、自動車保険、傷害保険などの損害保険全般および生命保険の取り扱い。</p> <p>【販売】事務用什器、備品、消耗品、OA 機器、研究室実験台、実験機器、各種イベント等の記念品の販売。</p> <p>【印刷・文書電子化】印刷物の集中発注等を行い、品質の確保とコスト削減を行う。書類等データの電子化により、ファイリングスペースの削減と閲覧容易化の提案を行う。</p> <p>【出版・翻訳】書籍の印刷・製本・印刷代行を行う。</p> <p>【リース・レンタル事業】事務用什器など、企業や学校運営に不可欠な機器等の低利リース事業および各種レンタル事業の展開。</p>
--

（出所）株式会社エスアイテック会社案内等

表 3 主な人材派遣実績について

学科	卒業年	キャリア	派遣先業務内容	就業先
建築	1970年	建築設備	建設時の技術監修	大学
	1973年	建築設計監理	顧客アフター処理業務	ディベロッパー
	1975年	建築施工	施工計画相談業務	大手ゼネコン
	1978年	建築設計	意匠設計補助業務	設計事務所
電気	1961年	電気設備設計・監理	設備監理	大手ゼネコン
	1962年	精密機器設計・開発	商品開発	情報サービス会社
	1962年	電気機器設計・製造	ISO14001 認証取得支援	本学
	1964年	通信・IT ビジネス	IT ビジネス事業支援	情報サービス会社
機械	1959年	機械設計	ロボットセミナー運営支援	大学
	1962年	計測機器商品設計	ISO14001 認証取得支援	事務機器製造業会社

(出所) 株式会社エスアイテックウェブサイト < <http://www.sitech-jp.com/recruit.php> >

3. 会社が大学に果たしている役割

(1) 大学と卒業生を結ぶ

人材バンク事業は、企業向け派遣だけではなく、芝浦工業大学にも派遣することがある。人材バンクに登録されている卒業生を、学内の様々な業務（例えば実習支援スタッフ）で活用している。卒業生が有している技術知識や実務経験は大学の教育研究業務で活用する場面は多々あり、エスアイテック株式会社が存在することで実現できている。

また、人材バンク事業は、「生涯活躍できる技術者を輩出する」という意味で芝浦工業大学のレピュテーションを高める効果があると考えられている。

(2) 大学と地域を結ぶ

人材バンク事業を通じて卒業生が活躍する場面は、在校生に対する支援の場だけではない。芝浦工業大学では、地域連携・生涯学習センターを設置し、学外の一般参加者を対象に公開講座を行っている。その中で的人气講座が全国各地で開催するロボットセミナー¹である。このセミナー運営に卒業生が協力している。同セミナーは子どもたちが自分で製作したロボット同士を戦わせるプログラムで人気となっているが、ロボット製作時に子どもたちを補助・指導する役割を卒業生が担っている。補助・指導は技術的な素養だけでなく、子どもたちとのコミュニケーションが必要となり、卒業生は確かな技術力だけでなく豊富な人生経験を活かし上手く務めてくれている。

また地方セミナーの開催においては、その地域に在住する卒業生の人的ネットワークを活用できることも多く、一方で全国各地に散在する卒業生が「支援スタッフ」という形で芝浦工業大学と再びかかわる機会があることで大学へのロイヤリティを高める効果もある。

¹ 小学校高学年から中学生を対象に、ロボット開発の実践教室を行う同セミナーは 2000 年に開始されて以来、延べ 23,000 名が受講する人気講座である。詳細は芝浦工業大学 公開講座「ロボットセミナー」ウェブサイト <<http://extension-programs.shibaura-it.ac.jp/rs/>>参照。

4. 今後の展望

(1) 大学とのパートナーシップ

学校法人が出資子会社を設立する目的としては、学校法人本体で実施していた業務をコストダウンするために子会社を設立し業務をアウトソーシングする 경우가非常に多い。芝浦工業大学では、株式会社エスアイテックの設立が早い時期（1998年）だったこともあり、業務のかかなりの部分において、同社に代理店業務、調達・購買業務等でのノウハウが蓄積され、コスト削減から品質向上へと子会社を活用するメリットが移ってきている。また大学本体では実施困難な事業（人材派遣や企業への技術指導など）を大学以外の顧客に展開し、「大学の一部分」ではない独立した事業組織として存続している。一方で、同社営業所は大学敷地内部に存在するなど、必要な連携は十分にとられている。

大学と社会の関わりが深まる中、大学が新たな事業を展開する機会が増えてきているが、その際に大学本体で人員・予算を充てて取り組むことはリスクが高いため、経営自由度の高い同社を活用して事業を行うケースも多いという。民間企業ならではの機動力と高い専門性を有する同社を芝浦工業大学が活用する場面は今後ますます増えると考えられる。

(2) 学校法人本体への貢献

出資子会社である株式会社エスアイテックは、大学に対して寄付という形で利益を還元している。2014年度決算では5,000万円の寄付を行っており、同社が設立された1998年からの累積寄付金は総額76,866万円である。非常に多額の寄付を行っており、収益面からも大学を支えていることが分かる。寄付を行う際に、公募研究費に近い形式で大学教員に配分することも行っており、大学の研究活動を直接的に支援していることも特徴である。研究費として寄付を行う場合は、学内の公募審査会にも会社として参加し、研究課題の採択にも関わっている。

三菱総合研究所の視点

日本の大学では、卒業生という大学資産の活用は、まだ改善余地のある領域である。多くの大学は、卒業生名簿を作成し、寄付金募集に活用することどまっているのではないだろうか。今回インタビューを行った芝浦工業大学では、企業で活躍した卒業生人材を大学として東ねて技術者派遣という収益事業を興すという極めて珍しい事例であったと言える。

株式会社エスアイテックの特徴は、卒業生人材を活用して収益を上げつつ、卒業生人材にも給与という形で報酬が与えられる点にある。一般的な大学では、卒業生との交流事業という卒業生の具体的メリットが見えにくい取組みにとどまっているが、株式会社エスアイテックでは、依頼を請け負った企業や行政からの業務委託費から、大学への寄付を行う他、登録している卒業生に給与を支払っている。このモデルであれば、一般的な大学の寄付依頼とは異なり、卒業生にも金銭的なメリットがあるため、株式会社エスアイテックの利益から継続的に大学に寄付を納めることができる。

学納金収入や公的助成に依存しない大学経営が求められる時代となった今、大学への寄付金獲得は重要な大学経営課題であるが、寄付文化の根付いていない日本において寄付金を大学が獲得するのは簡単なことではない。卒業生の活躍支援事業は、大学の新たな寄付金獲得の形態として拡大する可能性もあるのではないかと。

謝辞

本稿に執筆に際し、学校法人芝浦工業大学の早乙女徹専務理事に貴重なお話を聞かせて頂きました。この場を借りて感謝を申し上げます。